

四国通路の予定

毎年春秋の二回お参りをしてきた四国巡拝（おへんろ）ですが今秋にはできそうに考えております。たとえ少人数であっても参拝で予定をいたします。

予定期日
十一月十五日（火）～
十七日（木）
（二泊三日）

先行 伊予（愛媛県）
金額や日程もまだ不確定です。詳細決定は十月初旬の予定です。現在宿坊がほとんど閉鎖のため今回は遍路宿とホテルになります。お問い合わせをされた方には詳細が決まりました。次第案内いたします。なお高野山参拝は今春催行できずにご迷惑をおかけしました。

真言宗の基礎知識（その四十七）

（高野山）

もともと紀伊山脈は古くから修験者たちの信仰の山々でした。今でこそ国連の世界文化遺産として熊野古道などとともに整備されていますが、これらの山々に登ることは、命を懸けて遭難する事を覚悟しての行為でした。

いまでこそ、国道や私鉄を通じて、分単位で到着が予測できる場所になりましたが、都からも遠く離れ、昔は紀ノ川を渡るとその先が黄泉の国の入り口となり、里で亡くなった人はその魂がこの山々に登ってゆくという信仰がありました。

最近では墓じまいなどで減少しているのですが、高野山に喉仏（のどぼとけ）を納骨をする風習も日本全国津々浦々に広がっており、昔から高野山の領域は死者の魂が導かれるところ、靈魂の戻るところの印象が強くありました。

しかし、お大師さまが高野山を開かれた理由の第一は、国や民衆の安泰を祈る場所としてでした。当時、京都や奈良には大きな官立の寺院が数多くあって、鎮護国家の法要も盛んに行われていました。お大師さまが都での活躍をされればされるほど、周囲の俗事に翻弄されてしまい出来る事は減ってしまいました。お大師さま自身が自然の中で素の自分となり国や人々のために祈れる場所が高野山であったのです。

そしてその祈りこそが今でも高野山を他との違いの大きな部分です。

実際にここ数年前からコロナが流行する前までは、高野山や四国の遍路を訪れる人の約半数近くは外国の人であったようで、日本の中でも特異な場所であったようです。

お盆づとめについて

すこしずつコロナの流行が山を越えてきたのでしょうか、それとももう慣れてしまったのでしょうか。マスクをしての外出など昔の景色とは様変わりをしていてもあまり気にならなくなっています。

今年のお盆について、昨年までの二年間と同じく、ご希望のお宅のご仏壇を回りたく存じます。病気やお仕事の関係で困難な場合はご連絡をください。また訪問するお宅にはすべてこちらから日程調整の電話をいたします。今年七月十二日～十六日までの間と七月三十一日から八月十六日までといたします。早いお参りをご希望の方は、それ以外の日でも結構です。

なお、八月十三日前後はご希望者が集中しますので七月九日のお施餓鬼法要後のご相談をお願いします。なお、八月一日から八日までのお参りの密な地域は次の通りです。

- 一日 大門町東谷 二日 中谷から西谷
- 三日 横道 四日 幕山
- 五日 石樋・古地 六日 大門町一丁目七丁目
- 七日 引野・手城・曙・新涯・川口
- 八日 蔵王・春日町

八月九日以降は改めてご案内をします。

上之坊だより

令和四年七月一日
第94号
福山市大門町大門325
電話 (084) 941-1031
fax (084) 941-1168

弘法大師聖語抄

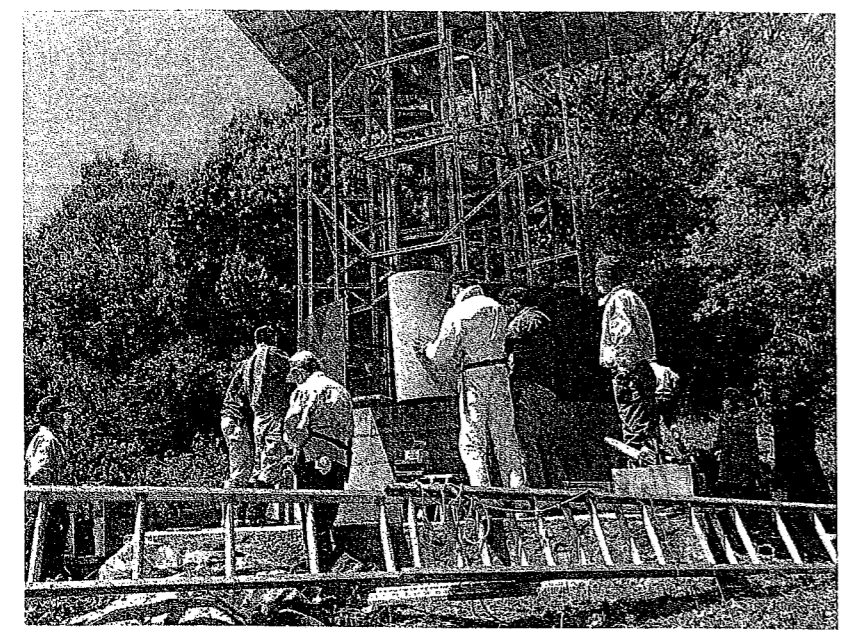
ぶつにち かげ しゅじょうしんすいげん
佛日の影、衆生の心水に現ずるを加といひ
ぎょうじやしんすい ぶつにち かん
行者の心水よく佛日を感じずるを持と名づく

加持祈祷（かじきとう）と言う言葉がある。加持とは仏さまの加護の働きが私たちに与えられる事、祈祷は仏さまに祈る事を意味している。

この「加持」をお大師さまは「仏さまの影響が私達の心の中に投影され現れることを【加】といい、私達の心と体がよく仏さまを身近に感じることを【持】と名づく」と書かれている。

「加持」とは言わない。自然や周囲との調和を考え自分の願いが叶えば、幸せの輪が広がる事を祈りたい。不幸が続く時には悪い方にばかり考え込んでしまい、負の循環を断ち切れずに迷ってしまう。昔からの「願がけ」は悩みや苦しみを全て仏さまに預け、心を空にして、おかげをいただく事だった。

心の中が変われば周囲の景色も変化する。現実が好転することも起こりうると思う。



新ユギ塔(奉告塔)の下の層から外板を取り付けはじめる。
現在(6月末)までにほとんどの外板が張り終わっている。

周囲の事はおかまいなしに自分勝手な願いをすることを

「加持」とは言わない。自然や周囲との調和を考え自分の願いが叶えば、幸せの輪が広がる事を祈りたい。不幸が続く時には悪い方にばかり考え込んでしまい、負の循環を断ち切れずに迷ってしまう。昔からの「願がけ」は悩みや苦しみを全て仏さまに預け、心を空にして、おかげをいただく事だった。

心の中が変われば周囲の景色も変化する。現実が好転することも起こりうると思う。

お施餓鬼法要のご案内

おせがき（ロウソク）法要を七月九日（土）夕方六時三十分より行います。
この法要は灯明・食物やお水をお供えして、多くの諸精霊の成仏を祈る法要で別名を「施食会」とも言われています。地獄や餓鬼道に墜ち、飢えや渇きの苦しみを成仏できない精霊に水や食物を供えて成仏できるように願ひ、また最近亡くなられて間もない仏様には一層の菩提の安らかなる事を祈る法要です。

お盆には各地でいろいろな供養の行事が催されますが、このおせがき法要がその一番最初の姿であり、亡くなった方への供養として、大変長い歴史を持つ由緒ある儀式であります。今も多くのお寺で続けられているおせがき供養ですが、上之坊では亡くなられて三年くらいまでの仏様を中心に、有縁無縁（うえんむえん）の三界万霊への供養をいたします。午後六時半に夕勤行を始めて夕暮れを待ち、読経をして、経木塔婆（きようぎとうば）に水をかけて回向をし、最後にロウソクに点灯をしてまいります。

新仏（しんぼとけ）様などで特別に成仏をお祈りいただく場合は、これに二尺半の施餓鬼塔婆をお墓にたてていただくようお願いいたします。できましたら前日までに電話でお知らせください。

このときの志納金は五千円です。（記念品とお菓子付）また一般参拝の方は経木塔婆とロウソクをお渡ししての供養となります。一家族二千円をお願いいたします。（お菓子付）この一般受付は当日九日夕方六時十五分より開始をいたします。この法要終了後、今年のお盆勤めの日時のご希望を受けます。お盆に近い八月中旬にご希望の方はお残りいただき、ご相談をしたいと思います。

なお、今年もコロナ禍のため、間隔を十分に空けて参加いただけるよう準備をいたしますが、マスクをご持参いただきますようにお願いいたします。

総代世話方会開催

今年四月十六日午後一時半より、一月にできなかった総代世話方会が本堂にて実施されました。当日は約半数近くの世話方様の交代もありました。会議では合祀墓の建設が決定され七月中旬からの着工となります。また毎月の護摩祈願法要への協力も申しあわせました。

今年四月十六日に寺内整備作業を実施し、ユギ塔の外壁等を行いました。

例年二月の星祭り前に実施していた寺内整備を今年はコロナ禍でできませんでした。

その代り春、四月十六日の土曜日午前九時より十二時までの三時間をかけて新ユギ塔および周辺の整備を大勢で実施いたしました。

当日は晴天の下、午後からの総代世話方会にご参加いただく方や、広くご奉仕をいただける方など総勢三十名近くのご参加をいただきました。

上之坊奥之院周辺や厄除参道の除草作業を行う方と新ユギ塔周辺の除草と整備を行う方に分かれて清掃を行いました。

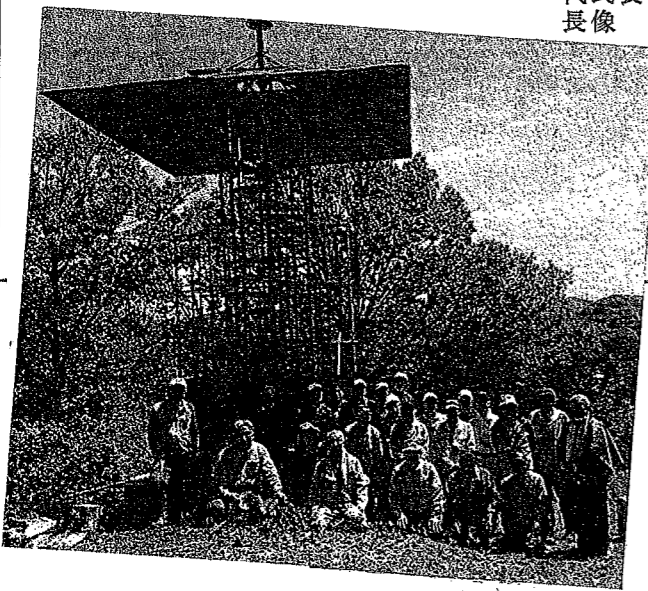
実はこの日に旧ユギ塔の解体と芯柱の撤去などを計画していましたが、高橋眞治総代長他二名の有志の方で前週までに整理をしていただいていたので、新ユギ塔の外板の下層部を張り終えが出来て、完成したときの全体の姿が見えてまいりました。

このユギ塔の建設の進捗状況にあわせて、かねてからのお約束でした、上之坊の元総代長であり、旧深安町町長でJFE（旧日本鋼管）の誘致

に尽力した小川安六氏の胸像をこの新ユギ塔の北側に安置できました。なお、この胸像の安置について、総代会で決定の後、ご親族からご厚志をお供えいただきました。新ユギ塔などの営繕とあわせて永く顕彰をしたいと思えます。

ユギ塔を本格的に作るのと綿密な設計と、巨額の資金が必要となります。上之坊のユギ塔は本物を真似て、遠くから見ると何かそれらしく見える程度の廉価な手作りの塔です。まだ何年かかかりそうです。

右 高橋総代長
中 小川安六氏像
左 小川副総代長



↑全員で記念写真

